

日本建築学会公開研究会

「高齢者が地域に住み続けるために一様な地域主体毎の取組の成果と今後の課題」

日時：2月25日（木）13：30～16：30

会場：建築会館3階会議室

主催：建築計画委員会 住宅計画運営委員会
高齢者・障害者等居住小委員会

高齢社会が急速に進展する中、高齢者の地域居住の実態は変化してきている。一人暮らし高齢者の孤立化、高齢夫婦のみ世帯の増加、老老介護、認知介護の増加などが進む中、地域で暮らす高齢者を支える仕組みもまた大きく変化し、新たな課題に直面している。

そこで、本研究会では、広域を対象とする県レベル、住民の生活により近い町のレベルさらに生活に密着した町会や自治会レベルの3つの地域主体毎に、介護保険施行以降の10年間を通じて、「高齢者等が地域に住み続けること」を実現するために、どのような取り組みをしてきたのか、その実態と現時点での到達点を明らかにする。

その上で、今後の取り組みをさらに深めるためにどのような課題に直面しているのか、またそれをどのように解けばよいのかについて、活発な意見交換と討論を行う。

内容：

1 主旨説明 園田真理子（明治大学／小委員会主査）

2. 報告

1) 公団常盤平団地の自治会の取り組み－孤立死させない、しないために

菘輪裕子（聖徳大学短期大学）

2) 豪雪中山間地の十日町での取り組み－町役場と民生委員が世話役となって

山田義文（東京大学）

3) 茨城県における地域ケアシステム構築の取り組み

阪東美智子（国立保健医療科学院）

3. 全体討論：「老いても地域に住み続けられるために」

4. まとめ